

あとがき

『ロマンス語研究』第53号をお届けいたします。本号は、日本ロマンス語学会第57回大会（2019年5月25日(土)、26日(日)の両日、清泉女子大学にて開催）での口頭発表に基づく論考を中心に掲載しています。大会実行委員長としてご尽力くださった清泉女子大学文学部教授の木村琢也先生に改めてお礼申し上げます。

同大会の統一テーマは「ロマンス諸語におけるコロケーション・成句」でした。第1日は自由テーマ2件、統一テーマ4件の発表があり、第2日には6件の自由テーマの発表がありました。今回ju回はフランス語とスペイン語に関する発表が多数を占め、例年よりは地理的偏りが大きかったようにも思われますが、統一テーマ関連としてパリ第3ソルボンヌ・ヌーベル大学教授の **Jeanne-Marie Debaisieux** を招待講演者としてお迎えすることができて、内容に深みが加わったと思います。通時、方言学、社会言語学、日本語との対照研究などさまざまな観点から、活発な討議が展開されました。発表者の皆様、講演してくださった **Debaisieux** 先生と同先生をご紹介くださった川口裕司先生、ご出席くださった多数の会員の皆様に感謝申し上げます。

統一テーマの発表者と会場のやりとりの概要は本号の「総合討議の総括」にまとめられています。当日の統一テーマの総合討議の司会を務められ、「総括」の作成にもあたられた秋廣尚恵先生にお礼申し上げます。

本号には、厳正な査読を経て、統一テーマに関連する論文3本と自由テーマの発表に基づく論文7本が掲載されています。招待講演に基づく **Debaisieux** 先生の論文はかなり長くなりましたが、そのまま掲載いたしました。

今号がこのような形で無事刊行できたのは、山村ひろみ事務局長、川上茂信編集委員長ならびに査読にあたってくださった専門家各位のご尽力によるものです。心よりお礼申し上げます。

本学会は1967年4月、故小林英夫先生が中心となって発足した「日本ロマンス語研究会」から、1969年6月より「日本ロマンス語学会」へと発展した組織です。本会が日本におけるロマンス語学の発展に今後も寄与することができるよう、皆様の一層のご協力をお願い申し上げます。

会長 後藤 斉